

我々は、目を通じて多くの物事や現象を見ることが出来ます。また、目で見たものを頭脳に伝え記憶させることが出来ます。同時に、物事や現象さらには目に見えないものを「見抜く」ことが、流通やSCを成功に導くためには必要です。「見抜くとは、一般的あるいは他の人には見えないものを目ではなく脳で見て把握すること」です。

見えないものを見抜く手法は次の通りです(六車流：流通理論)

(1) 勉強手法

自分より上回るレベルものを真似するあるいは知ることであり、読書、話を聞く、勉強する、教育を受けることにより可能となります。これらの自分より上回るレベルの知識を知ることにより、今まで知らなかったことや気がつかなかったことが見えてきます。

(2) 事例研究手法

成功した事例や失敗した事例の研究や、起こった出来事の因果関係や相関関係を実証することにより、今まで知らなかったことや気づかなかったことが見えてきます。

(3) 千里眼手法

千里眼手法は正に見抜くという言葉に匹敵する内容です。人が見えないものを自分だけ見ることや、今まで誰もが見えなかったことを自分だけが、より深いレベルと画期的なレベルで解明することを、千里眼手法による「見抜く」と言います。

千里眼手法は次の要因が必要となります。

独自固有の興味を持つこと

好きこそもの上手なりということわざがあるように、1つのものに興味を持つと、今まで見えなかったことが見えてきます。興味を持つと脳がすべての五感に伝え、五感の感度が高くなり、五感を通じてものごとを頭で見抜くことが出来るようになります。プロとして見抜く力を発揮するためには、特定の分野で、他人よりレベルの高い独自固有の興味を持つことが必要となります。

メカニズム発想を持つこと

1つの現象を明確にするための手法として、知識 理論 戦略 戦術 戦法の順不同の法則があります。その中で、理論がメカニズム(因果関係と因果要因を解明すること)です。比喩論で言うならば、「りんごが木から落ちる現象を見て、その奥にある万有引力の法則を発見する」ことがメカニズム発想です。

継続力と積上げ力を持つこと

1つの現象の解明は最初は薄く、継続的に解明を行うと、次々と深味が出て、見えないものが見えてきます。継続こそは千里眼手法の真髄であり、継続こそは力なりの由縁です。また、継続中に見えたものを常にメカニズム的に文章化し、次々と積み上げることにより累積的な千里眼効果が発揮できるようになります。

万物普遍の原則を適用すること

世の中の多くの出来事は、1つの基本原則に基づいて動いています。これを万物普遍の原則と言います。宇宙の仕組みや現象、動植物の行動や仕組みや現象、超ミクロの社会での変化や現象、戦争や歴史の出来事の中での現象や結果...等の色々な自然や歴史の動きの中に原点があり、応用することにより、我々が経験しなくても、その成功と失敗のメカニズムを見抜くことが出来ます。

このように、見えないものを見抜く千里眼のためには、経験と訓練と発想と意欲が必要となります。

千里眼とは別に、文章と説明力について説明させていただきます。文章には「説明文章」と「分析文章」と「解析文章」の3タイプがあります。

説明文書とは、特定の事実を現象として正確に伝えることです。分析文章は、特定の事実を、事実を前提として因果関係的に伝えることです。解析文章とは、特定の事実を、あるべき姿あるいはあるべき方向性に基づき、現状・実際と比較して伝えることです。

我々は、出来る限り解析文章が必要です。解析文章を書くためには「基礎研究」(物事の成り立ちの原点の究明)と「応用研究」(1つの事業に応用させる手法)が前提として必要となります。解析文章で相手に伝えると簡単かつ短時間で効果が出ます。分析文章は因果関係は多いが効果は十分に生まれません。説明文書は知識としては理解できて効果はゼロです。